

「HSK 季刊わたぼうし」 第42号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1996年(平成8年)11月20日 '96 秋号

第42号のテーマ 障害者の住宅を考える II

木曾川旅情

- ・車いすたんでのせる船くんだり
- ・船頭に命あずけた一時間

作：比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

《テーマ 障害者の住宅を考える II》

私の家は車いす用住宅でも……

地域住民・肢体障害

月の半ば過ぎ、ベランダにあるアジサイの花が咲き始めた頃に、「私の住宅改造の体験」というテーマで原稿依頼が来ました。

私はちょっと戸惑ってしまいました。それは、私が、生まれて育った家から出て、今まで、6回の引っ越を体験してきましたが、住むにあたってどうしても改造しなければならないところは、トイレだけです。なぜ6回も引っ越しをしたかという、私は家運が悪くて立て替えるので出ていってくれとか、私が妊娠したので、二階暮らしができないとかで変わったということです。引っ越しをするにしても本当に大変な思いをしました。不動産屋の人は、アパートを紹介してくれても、大家さんが「イヤ」だといって借りれなかったり、その反対に不動産屋が、いやがりアパートを紹介してくれなかったりでした。その理由は、私が障害者で火の始末が危ない、という余談と偏見に満ちたものでした。

あまりにもひどい対応の不動産屋があったので、不動産協会と私が入っている「サンの会」で交渉を持ったこともありました。

そして、今の市営住宅に入ってから、今年で丸9年になりました。私はこの市営住宅が出来る前から、市役所に行き、出来るだけ使いやすくして欲しいと要望してきました。それというのも、ここは車いす用住宅ということで車いすに乗っている人には使いやすいのかも知れませんが、私みたいに少し歩ける障害者にとっては使いにくいことが分かっていたからです。車いす用ですから、段差はありませんが、和室の6畳の入り口と風呂の入り口が車いすから直接は入れるように床から40センチ高くなっているのです。私はとてもそんな高いところに上がれないので床と同じにして欲しいと言ったのですが、住宅側の回答は「あなたが永久的に住むわけでないので、後に入る人によっては壊さなくてはならなくなるので、造り替えるのは無理ですね。」とのこと、最初にはいる者の特権で風呂場のタイルと形と色、それと、台所の流し台の高さは私に選ばしてくれました。そして、実際に暮らして、和室と風呂が使えないということで、住宅課へ行って階段を作ってもらいました。階段が2ついるのですが、風呂はたまにしか入らないので移動させれば良いということで一つしか作っていません。その階段も2段あり重いし、場所をとるので、和室の入り口においたままで、風呂の入り口には自分で買った椅子を置いています。私は、今のところ家の中は、歩いていますが、一時は車いすと歩行器を使っていたこともあります。そんな時、この障害者用住宅に住んでいてよかったなあと思いました。備えあれば、困ることも少なくてすみますね。

最近、高齢者社会が来るということもあり、バリアフリー住宅というものが盛んに言われ、造られてきています。私も2ヶ所見学に行ってきましたが、確かに便利で、あったらいいなあと思います。しかし、とても値段が高くて、一般の人が住宅を建てる時にそういうものを付けるだろうかと言えば、たぶん、付けるだけの予算がないと思います。私が思うのは、障害者用住宅を建てる時に、そこに入る障害者を先に決めて、その人にあった住宅を造って欲しいと思います。全国的にはいくつかの県や市で行っていると聞いてい

ます。これは何も障害者だけではなく、一般の人たちだって年をとれば、ほんの少しの段差でもけつまづくようなになるのですから、公営住宅にそんな配慮がなされていても、私はよいと思うのですが、皆さんはどう思いますか。

ウェルフェアテクノハウス高岡(WELFARE-TECHNO-HOUSE)

編集委員が見に行ってきた所をご紹介します。皆様もぜひ見学に!!

- ・延べ床面積：204,00㎡ 一階床面積：132,48㎡ 二階床面積：71,52㎡
- ・構造：在来木造二階建て
- ・所在地：富山県高岡市博労本町4番1号

見学される方へ

- ・ウェルフェアテクノハウス高岡の見学時間は、午前10時～午後4時まで
- ・団体で見学を希望される場合は、事前に連絡して下さい。

連絡先：高岡市ふれあい福祉センター

富山県高岡市博労本町4番1号

☎ 0766-21-7888

FAX 0766-21-7885

ウェルフェアテクノハウス高岡について

ウェルフェアテクノハウス高岡は、通産省工業技術院の医療福祉機器技術研究開発制度の一環として、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が、技術研究組合医療福祉機器研究所に委託して先端在宅介護機器システムの研究開発をする施設です。

(1)ウェルフェアテクノハウスは

介護が必要な高齢者や障害者の方々にとって快適な家。そこには使いやすい様々な福祉機器が整備され、暮らしやすさに配慮した新しい仕様が必要とされています。

ウェルフェアテクノハウス高岡は、この二つのテーマを融合し、一つのシステムとしてとらえ、これからの高齢社会で役立つ先端的な介護機器システムの普及と研究開発を実施することを目的としています。

(2)高岡市ふれあい福祉センターでは

介護福祉機器の展示や福祉保健情報の提供・相談を行うので、ウェルフェアテクノハウス高岡と有機的に連携することにより、安心機能の拡充と有効利用を図ることが出来ます。

(3)主な設備

- (イ)玄関……スロープ・自動ドア
- (ロ)廊下……滑りにくい床材の使用・車椅子操作が可能なゆとりある廊下巾
- (ハ)階段……手すり・踊り場の確保・階段昇降機・ホームエレベーター
- (ニ)台所……車椅子に座ったまま炊事が出来るシステムキッチン
- (ホ)居間……家屋の証明・室温湿度の調整・カーテンの開閉等をまとめて遠隔操作できる・集中管理システム
- (ヘ)洗面所……使いやすい高さに調節可能な洗面化粧台
- (ト)便所……暖房・手すり付き
- (チ)寝室……高低リモコン付きギャッジベッド・浴室・便所への移動がスムーズに出来る天井走行式リフト・寝室からピロティへの移動がスムーズに出来る段差解消機

- ①ピロティ・テラス　ロードヒーティングにより融雪します。
- ②玄関スロープ　1/15以下のスロープとし、床材は滑らない材料を選定しました。
- ③断熱自動玄関ドア(引き戸)　高断熱・高气密性を確保するために、断熱玄関ドアを採用。また車椅子による開閉の困難さを解消するため、電動ドアとしました。
- ④腰掛けベンチ　高齢者の靴の履き替えの負担を考え、手摺と共に設けました。(乗り換え台兼用)
- ⑤段差解消機　テラスとピロティの高低差を解消するため設置しました。
- ⑥車椅子収納スペース(充電端子付き)　屋外用の車椅子の収納スペースを設けました。(使用しやすいよう縦入れとしました。)
- ⑦ホームエレベーター(3人乗り)　車椅子と介護者が一緒に乗れるように、3人乗りとしました。1階・2階の2点停止
- ⑧階段昇降機　高齢者のフロア移動を容易にします。
- ⑨身障者用システムキッチン　健常者も車椅子での使用も、使いやすい高さに調節できます。
- ⑩横型冷蔵庫　車椅子での使用しやすい横型冷蔵庫です。
- ⑪自動食器洗い機　車椅子での使用を前提とした食器乾燥機です。
- ⑫ドラム式洗濯乾燥機　車椅子での使用も容易な高さに設置しました。
- ⑬冬期や雨天時の洗濯物を干す場所を確保しました。車椅子でも使用できる上下可動式です。
- ⑭手動昇降式洗面化粧台　車椅子での使用も健常者も、使いやすい高さに調節できます。整容のためのスペースを確保しました。
- ⑮介護スペース付き浴槽　介護者の負担を軽減するため、浴槽の両側に移乗スペースを設けました。シャワー設備もあります。また、健康管理システム(心拍数測定装置)もついています。
- ⑯リモコン式温水洗浄便座(脱臭機能付き)　高齢者にも使いやすい仕様としました。
- ⑰電動ベッド　リモコンによりベッドの形状を変えられます。

⑱水平トランスファー 介護者の負担を軽減するために設置。トイレ、浴室に行くことができます。⑲和室入出用乗り換え台 和室と居間の床に高低差のある部分も、この乗り換え台でフロア移動を容易にします。

・立ち上がり機能付きパーソナルチェア 居間におけるくつろぎの時間を大切にします。

・高齢者対応型ソファセット 車椅子からの移乗も容易なソファセットです。

・床暖房システム(洗濯質・浴室)冬期の快適な温熱環境を維持します。

・喚気冷暖房システム 四季を通して常に快適な室温を保ちます。

・空調制御システム 湿度調節器を設け、一定の湿度を保ち快適な住環境を保持します。

・熱交換器システム 室内の汚れた空気を排出し、新鮮な外気を室内に導入。熱交換により、エネルギーのムダを軽減しました。また、高气密・高断熱住宅により快適な住環境を確保しました。

・ホームバスシステム セキュリティシステムなどの情報制御と照明やカーテンなどのリモートコントロールシステムやホームオートメーションシステム、室内の温度、湿度の調節などの環境制御をまとめました。

お便り

匿名より

拝啓、青葉が目まぶしい季節となりました。皆様にはお変わりございませんでしょうか。先日、「HSK季刊わたぼうし」(NO41)のテーマ「障害者の住宅を考える」を読ませていただき、本当に考え深いものがありました。

私の長男が脳内出血で入院し、その時に何らかの障害が残るかも知れないことでしたが、幸い先生方のお陰で(本人も頑張りましたが)日常生活は何も問題なく送れるようになりましたが、ちょうど家を少し直したところでしたので、そんな時に読ませていただいて本当に考えさせられました。

私たちが何事もなく年をとれるとよいのですが、他人ごとではないので今度家を建てる時、また、リフォームすることがありましたら、後々のことを考えてはなくてはならないと本当に思います。

家は、やはり何よりも安らぎの場であり、生活の場でもありますので、本当に大切にしたい使いやすい家にしていかなくてはと本当に思います。

本当にためになりました。では、これからも皆様も、お身体に十分気をつけて頑張ってください。心より願っています。乱筆乱文ではありますが失礼します。敬具

在宅介護について

地域住民・主婦

重度の障害者を持つバリア・フリーとは、障害者本人と同時に介護する人も長期戦に渡るので、環境も良くすることが必要である。

重度の場合は、主に生活は移動ベッドか車椅子が主体で、そのため、部屋数は不必要で

ある。全体に家にいる時間が長いので、介護者が圧迫を感じない部屋を広く取り、常に障害者がどのような状態かを見えるように考慮する。

そして予算の許す限り、できれば庭を広くとることも重要と思われる。

介護保険について

地域住民・団体職員

この時期に介護保険について説明を求められて、困ってしまいました。というのはこれから先どのようなようになって行くのか、まだまだ不透明だからです。試案という形で、かなり固まったものがあるのですが、実際に国会に法案として提出されていませんので、今後、手直しが入る可能性があります。それを前提として、この文章を読んでいただけたらよいと思います。合わせて、誰にでもわかりやすくという思いもありますので、簡略化して説明します。

対象者は？ 本来介護保険がでてくる背景から説明しなければいけないのですが、そこから話し出すと、話が複雑になりれますので、現在、予想される介護保険のシステムを説明します。

まず、この保険によるサービスを受けられる受給者ですが、これはまだ定かではありません。お金を払うのもサービスを受けるのも40歳以上とか、サービスを受けるのは65以上とか、70歳以上とかさまざまな意見があります。私の個人的な意見としては40歳以上が望ましいと思います。と言いますのは、脳疾患で片マヒ等の障害が残られた方や「初老期痴呆」の方を援助するサービスがうすいからです。残念ながら、若年障害者についての介護サービスは平成7年末策定された「障害プラン」に基づいて整備されるそうです。

どんな状態になれば、受けられるの？ 次のどのような状態になればサービスを受けられるのかというと、在宅や施設で何らかの介護が必要な方ということになります。年齢は90歳を越えているが、一人で身の回りのことができ、自力で歩行が可能な方は対象になりません。また、法律は段階的に施行されますので、最初是在宅で生活していて、その生活を続ける方だけになると思います。入所施設におられる方は何年か後になります。

サービスを利用する手順は？ 家庭で介護に困られて、介護保険を利用したいと思えば、その旨を申し込みます。それを受けて要介護認定の担当者が家庭を訪問して、本人の身体機能や精神機能をチェックします。次にその訪問結果を要介護認定機関で、合議制により介護サービスが必要かどうかを決定します。同時に要介護度のランクを決めます。何段階になるかというのは、まだ、はっきりと言えませんが、身体障害者の方にわかりやすくいうなら、障害者手帳の等級のようなものを決めるわけです。このランクによって利用できる福祉や保険のサービスや量が決まります。これをケアマネジメント機関がその人の生活サイクルに合うように調整します。これをケアプランの作成といいます。また、決められた範囲内で本人がサービスを選択することもできます。サービス利用が始まって、一定期間が経過すると、うまくいっているかどうか、足りない物はないかという再評価がありますので、途中で身体機能の変化があっても対応できるようになっています。以上が、介護保険の説明ですが、もし自分の決められたランクが納得行かない場合、不服申し立てができ、認定のやり直しを求めることができます。

以上が大枠の説明ですが、今後、どのように変化があるか分かりませんので、障害を持

つ人も含めた国民全体の問題につながりますので、注目して行きましょう。

Windows95について

地域住民・パソコン販売業

私のパソコンとの付き合いは、やがて20年になります。当時はマイコンと言われており、基盤がむき出しで処理能力は、現在の電子手帳に遠く及ばないお粗末な物でした。

逆に現在のパソコンの処理能力は、当時数千万円したコンピューターにも優るほどです。今話題のWindows95など、当時はSFにでてくるコンピューターのようです。

さて、今日何気なく使っているパソコンも、「ソフトがなければただの箱」という事を聞いたことがあると思います。Windows95もソフトの一種ですが、Windows95だけではパソコンは使える道具にはなりません。

ワープロ・表計算・データベース・グラフィックスにパソコン通信・インターネットとパソコンで色々出来ますが、これら個々のソフトがあって初めて使える道具になります。

それではなぜWindows95が必要なのか？ それは個々のソフトがパソコンの全てをコントロールすることが出来ませんし、出来たとしても非効率的だからです。

何故ならキーボードのどのキーが押されたのか、マウスをどう動かしたのか、画面の何処にどの文字を表示するのか、フロッピーやハードディスクのデータを読み込んだり書き込む等々、基本的な作業まで個々のソフトに担当させると、個々のソフトの連携・データの相互利用が出来なくなってしまうばかりか、操作方法がバラバラになり、個々のソフトの操作を習得することが難しく混乱をきたしてしまい、ましてや簡単に切り替えて使うことはできません。

基本的な作業部分を共通化すれば、個々のソフトはそれぞれの仕事に専念できますし、操作体系の共通化・資産の相互利用が出来ますので、一つのソフトの操作を覚えれば、他のソフトを操作する事はそれほど難しくありませんし、それぞれのデータを簡単に利用できます。

この基本的な作業の部分を担当するのが、Windows95なのです。

基本的な作業をするWindows95の事を、基本ソフト(OS)、ワープロとか表計算などのソフトを応用ソフト(アプリケーション)として区別します。

Windows95登場以前は、MS-DOSとかwindows3.1がありましたが、操作体系がバラバラだったり、一本のアプリケーションをパソコンに組み込むための設定が複雑だったり、簡単と言いつつも難しい部分がありましたが、Windows95はかなり改良されて使いやすくなっています。まだ完全ではありませんが、プラグ&プレイと言う機能も持っています。この機能は、部品や周辺機器を増設した時、今までは厄介な設定が必要でしたが、Windows95では、簡単に使えるようになりました。

また、Windows95ではネットワーク機能が組み込まれたことも特徴の一つです。

複数のパソコンをケーブル接続すれば、ファイルやプリンターの共有が簡単に出来ます。

インターネットに接続する仕掛けも最初から組み込まれています。

何といってもWindows95の最大の特徴は32ビット処理に成ったことでしょう。MS-DOSやwindows3.1は16ビット処理でした。現在販売されているパソコンは32ビットです。つまり、MS-DOSやwindows3.1ではパソコンの処理能力を全て使っていなかったのです。

同じwindows用のソフトをwindows3.1とWindows95で動かした場合、最大70%Windows95の方が早く処理出来ます。

この速度差の恩恵に預かれるのは、マルチメディアです。音声・音楽・グラフィックスに動画(ビデオ映像)が処理しやすくなったのです。

何故マルチメディアが恩恵に預かれるのでしょうか？それはデータ量にあります。例えばこの原稿、文字データなら数キロバイトですが、この原稿を音声データにすると二〜三百倍にも成ります。更にビデオデータとも成れば、文字データの数万倍にもなってしまいます。

今話題のインターネットは、まさにマルチメディアなのです。いわゆるパソコン通信は文字だけでしたが、インターネットは当然文字もありますが、グラフィックにカラー写真あり、音声に音楽あり、動画もあります。

今年秋から冬にかけて、Windows95は主にインターネット関係の機能アップをします。現在のWindows95は一つの通過点です。これからのパソコンがハード・ソフト含めてどう進歩していくかが、楽しみです。

パソコン雑感

地域住民・団体職員

私がパソコンを初めて買ったのは、3年前です。それまでパソコンにはまったく関心がありませんでした。ワープロ専用機種で十分と思っていました。そしてその頃はトリアスロンに夢中で、自分の小遣いはすべてスポーツ用品に使っていました。ところが、おそらく自分の体が耐えることができる以上のトレーニングをやりすぎたのでしょう、椎間板ヘルニアになり、1ヶ月入院してしまいました。退院した後も腰の状態がなかなかよくならなかったで、これでトリアスロンはもう無理かもしれないと思い、なにか新しいことで面白そうなことはないかと考えました。トリアスロンのために貯めていた少しまとまったお金があったので、それでパソコンを買うことにしました。パソコンを使うからには絵や映像や音楽が扱えるものにしたかったので、本を色々読み、macかTownsを買うことに決め、パソコンショップに行きました。第一候補はmacだったのですが、価格的に私の貯金では足りませんでした。それで第二候補のTownsを買いました。

最初はTowns-OSをいじっていました。Towns-OSは使いやすく今でも好きですが、アプリケーションの選択肢が少ないことが、パソコンを使い始めたばかりの私には物足りませんでした。そこでバリエーションの多いMS-DOS、windows3.1もさわり始めました。もちろん最初はトラブルばかりでした。しかし、config、sysやautoexe,batをいじる楽しみを知りました。config,sysをか着替えて、今まで動かなかったのがすきっと動いたときの快感はたまりませんでした。そういういわゆるマニヤックな楽しみを知りました。しか

し同時に、windows3.1のシステムの不安定さにはいらいらさせられました。写真を取り込み苦労して加工し、さあ印刷するぞと思った途端にフリーズした時は、自分の今までの苦労はなんだっただとパソコンに毒づいてしまいました。

そうこうしてい内に、macが安くなってきました。パソコンを初めて買うときの第一候補だったし、macという名前は気になっていたので買いました。macを手に入れ触ってみると、確かに取りつきやすいわけです。まさに色々なことをする一つの道具という感じです。それはそれでいいことなのでしょうが、物足りないという気もしました。いじる楽しみ、トラブルが起きたときの解消するときの楽しみがないからです。windows3.1も確かにいじるという点では難しいOSですが、漢字Talkはもっと複雑すぎていじりようがないという気がしました。

それならば、いっそのこと徹底的に設定が必要なOSを触ってみようと思い、Linuxを手を出してみました。TownshipはLinuxが動きます。色々いじって、なんとかX-windowsも動くようにはしましたが、結局インターネットには接続できませんでした。さすがにLinuxは私には手がかりすぎたように感じました。もっとも、スタンドアローンでのLinuxなんてあまりメリットのないOSでしょうが。

さて、いよいよWindows95です。Township用の95はいまだに出ていませんが、DOS/Vノートパソコンの中古を持っていたので、発売日の次の日に購入し、早速そのDOS/Vノートにインストールしてみました。第一印象は多くの方が思ったのと同じ、「macにそっくり」というものでした。タクスバーを上を持ってくればまさにmacと同じように見えます。でもそれは見た目だけで、実際に操作してみると、やはりディレクトリーの考え方が背後にあり、基本的にはmacと違うことがわかりました。3.1より使いやすくなったかどうかは疑問でしたが、95になって一番うれしかったことは、これも多くの方が感じたことと同じでしょうが、まず3.1よりはシステム全体が安定したこと、それから「トラブルが起きたアプリだけを終了させられる」ということです。いよいよできはあがりというときにフリーズすることは少なくなりました。フリーズしたからといってシステム全体を再起動しなくてもいいというのは楽です。ただ、95になり、3.1よりもさらに、いじる楽しみは少なくなりました。複雑すぎて私などには手のだしようがなくなってしまいました。これは残念です。95もmacと同じくアプリを動かす一つの道具になっていきつつあるようで、寂しい気もしますが、道具なら楽に使える方がいいかとも思うように>なくなりました。だんだん、楽にアプリが使えるればいいと考えるようになってきました。いろいろいじってみようという気もうすれてきたようで、これは年齢のせいでしょうか？

去る9月23日第4回はくい福祉まつりで、わたぼうし会もNTTの協力のもと、インターネット、フェニックス(テレビ画像会議システム)等の紹介、実演しました。障害者にとって情報を得る手段としてよいのですが、価格の面でまだまだですね。

石川県社会福祉協議会より助成金をいただきました。

去る8月、”わたぼうし会“の活動に対して、石川県福祉協議会ボランティアグループ機材購入助成事業より助成金が、交付されワープロ一台を購入しました。これまで以上に紙

面を充実させたものにしていきたいと思います。ありがとうございました。

これでいいの？「季刊わたぼうし」及び編集後記

今年の「季刊わたぼうし」はどうなっているの？定期発行も守らず、パソコンに向かって編集する気にもならなかったこの夏でした。

何故だ、自分が12年前に始めようと言ったのに、あの意気込みは何処に行ったのだろうとっていました。

私も気かけながら、原稿を集める気持ちすら起こりませんでした。「どうしたの、桶屋、君が始めた機関紙ではないか」と自問自答していますが返事がないのです。

社会福祉情勢は介護保険の導入など大きく変わりつつあるのに、編集者が行動を起こさない自分が情けなくなります。

それが、ある一通の読者からのお便りが事務局から届いたとき、こんな身勝手な私が作った機関紙に対する返事を読んだとき、もう一度初心に戻って頑張ろうと思いました。

もう、自分だけでやっているのではなく、楽しみにしている人もいるのだと思うと、うれしくなりました。

先日、田鶴浜高校の文化祭に行ってきた。高校生たちが一生懸命に社会福祉の勉強をしています。いくらでも情報があるのではないか。何をしているのかと、考えさせられます。その高校生の様子は次号で詳しく書きたいと思っています。

もう一度、「HSK季刊わたぼうし」は初心に戻って頑張ります。